

■フランス：中国がアレバを救済か

2015年8月2日付のフランス紙は、取材に応じたフランス原子力事業者アレバの balan 会長が、中国によるアレバへの資本参加の可能性を示唆したと伝えた。アレバとフランスの大手エネルギー事業者 EDF は 2015年7月30日、27億ユーロで EDF がアレバ NP を買収するとして覚書を交わした。保有株式の売却その他を加えても、2015～2017年の3年間に借入金の借り換えのためにはなおも 34億ユーロが必要とされている。マクロン経済大臣によれば、国は 20億ユーロの資本増強に応じる用意があるとしている。同会長は現在 85% の国の出資比率は 3分の2程度で十分であるとして、外資の参加を模索、2030年までに 100基以上の原子炉を導入すると見られる中国を有望な出資者と見る。balan 会長は直前にプジョー（自動車）の会長として中国東風汽車の同社への資本参加を実現している。中国の資本参加が技術の流出ではなく原子炉の注文をもたらすことに期待を寄せているが、一方で中国一国だけの資本参加を警戒する声に対しては Atmea 炉を共同開発している三菱重工の参加も考慮していると述べた。